

事業所名		キッズハウスなごみ家 土生				支援プログラム（参考様式）		作成日		R7	年	3	月	8	日
法人（事業所）理念		『最幸』を生むサービスの提供 人として地域社会の中で、一人の人間として、その人らしい生活がいつまでも送ることができるサービスの提供をしていきます													
支援方針		ひとりで多くの子どもたちが『社会に出て自立した生活を送ることができること』を支援していきます													
営業時間		11	時	0	分から	17	時	0	分まで	送迎実施の有無		あり なし			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	日常生活においての必要な動き（食事、トイレ、着替え、読み書き等）を指導員が介助しながらも一人でも取り行える様に支援していき、日常生活に必要な習慣を身につけるようそれぞれの段階に合わせて環境や支援グッズを整えていき、将来の自立にむけての基盤作りを支援しています。													
	運動・感覚	ワーキングメモリーや仕事作業体験を取り行う事で指先の運動を向上しつつ、外出プログラムによって身体全体を動かす事で5感に刺激を与えて、日常的動作や運動能力の向上や体幹を鍛える事で勉強や仕事等での姿勢維持を高めると共に、集中力の向上を狙いつつ、学校や社会でも頑張っていける支援を取り組んでいます。													
	認知・行動	利用児が理解しやすい内容にするため、視覚的、聴覚的、感覚的な様々な支援方法を用いて療育を取り組んでいき、社会に出ても感情や行動をコントロールし、日常生活に必要な能力を身につけていけるよう支援しています。													
	言語コミュニケーション	基本的な挨拶や自分の気持ちを伝えられる様、活動の中で絵本の読み聞かせ、歌や絵カード、コミュニケーションツールを使用し、語彙力や表現力が身につけ、意思表示や言葉のキャッチボールが出来る様、支援していきます。													
	人間関係社会性	SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して集団でのルールを理解し周囲と協力して行動できるよう支援しています。また、日常活動の中でお友達と関りながら自分の気持ちを伝え相手の気持ちを理解することができるよう協力したり譲りあったりしながら支援しています。													
家族支援		保護者様との面談や電話、LINE、送迎時の申し送り等で保護者様の不安やニーズ、利用児の状況把握を共有しながらも保護者様の不安を減らしつつ同じ目標に向かって支援を取り組んでいけるつながりを大事にしています。						移行支援		ライフステージ等での切替を見据えた目標に向けての利用児や家族様との相談や移行先への情報収集、移行先への受け入れ体制の協力を行いながら支援を取り行っています。					
地域支援・地域連携		利用児や家族様が地域の様々な場面で適切な支援を受けれる様に関連機関との連携やライフステージの切れ目のない支援を大事にしつつ、担当者会議等で情報共有や研修に参加する等の支援体制を構築しております。						職員の質の向上		オンライン動画研修を取り入れながら、効率的にかつ持続的なスタッフの成長を図っていく（以前のように開催日時を決めることなく、自分のタイミングの合う時間で講習を受講していただく）					
主な行事等		外出プログラム、制作プログラム、クッキングプログラム													